学校教育目標：ともに高め合う　きららの子

# きらら

「地域に信頼され、地域とともにある学校」をめざして

韮山南小学校
学校だより

発行　令和6年　11月　　第7号

## アウトプットの活動で生きた知識に

校長　土屋貴俊

授業参観・懇談会へのご出席ありがとうございました。今回は保護者の皆様と同時に、学校運営協議会の委員の皆様にも授業の様子を見ていただきました。その後の意見交換の中で、委員さんから「今の授業は昔のように『ハイ・ハイ・ハイ』と言って子供が元気よく手を挙げて発表する姿があまり見られなくなった代わりに、タブレットに黙々と自分の考えを打ち込んでいる姿が多く見られるようになりました。これは新しい授業の形なのかな。」という疑問を投げかけていただきました。参観した保護者の皆様も同じような思いをもった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

一人一人の発表を中心に進める授業では、どうしても自分の考えを伝える機会が限られてしまいます。また、自分の考えをもたなくても他者の意見を聴いているだけで 1 時間の授業が終わる子もいるかもしれません。

そこで ICT を授業に活用していくことで、すべての子供が自分の考えをアウトプットしなくてはいけない状況に置かれます。すぐに自分の考えがまとまらない子供も、友達の考えを参考にして自分の考えをもつことができるようになります。教師も子供たちの画面の状況をモニタリングしながら、なかなか進まない子への支援も適宜できるようになりました。その他、全員が発言しなくても子供一人一人の多様な考えや価値観に触れられる等のよさもたくさんあります。

話を聞く、映像を見る、本を読む等のインプットだけの学習では、知識が定着できず活用に至りません。脳はインプットした情報のうち「使う情報」「興味ある情報」のみを記憶としてとどめる性質があるそうです。エビングハウスの忘却曲線によると、人間の脳は一度覚えたことを「1 時間後には半分忘れ」「1 日経つと 7 割忘れ」「1 か月後には 8 割忘れる」ことが分かっています。

それでは、どうしたら得た知識を忘れずに活用できるようになるのでしょうか。一つは、何度でも定期的に復習し、得た知識を使っていくことです。家庭学習もその意味合いが込められています。二つ目は、自分でストーリーを立てて覚えることです。「親」という漢字を「子を心配して木の上に立って見る親」と覚えるようなことも一つの例です。三つ目は、アウトプット（話す・説明する・文章を書く等）することです。脳科学的には、インプットとアウトプットの効率的な割合は**「3:7」**といわれています。インプットの 2 倍以上の時間をアウトプットにかける必要があります。授業でタブレットに自分の考えを表していくことや、友達に説明することによって情報を整理する力、順序立てて文章化する力、伝える力が鍛えられ、それが自信となり生きた知識につながっていきます。ご家庭においてもお子さんのアウトプットの場面を大切にしていただけるとありがたいです。